

## りんごポット養成フェザー苗の利用により、未収益期間の短縮が可能です

### 【1 成果の概要】

- (1) JM7 台木を利用したポット養成フェザー苗は1年生苗（地植）よりも結実開始が早く、密植（167本/10a）することにより、定植後4年目までの10aあたり収量は1年生苗（67本/10a）を使用した場合よりも4倍程度多くなります（図1）。
- (2) ポット養成フェザー苗は、定植時の費用は多いですが、初期収量が多いため、1年生苗を利用した場合よりも早期に単年度所得がプラスになります（表1）。

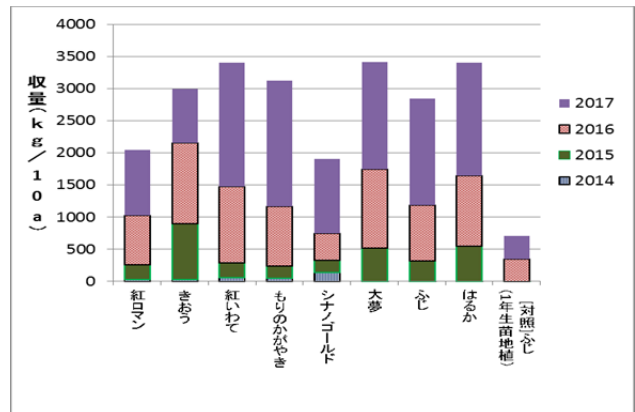


図1 定植後4年目までの累積収量(kg/10a)  
収量は、ポット養成フェザー苗 167本/10a、  
1年生苗 67本/10a として換算

表1 「ふじ」における年次別の10aあたり収益性

栽培方法	項目	2014年 (1年目)	2015年 (2年目)	2016年 (3年目)	2017年 (4年目)	定植5年 目推定
フェザー苗密植 (167本/10a、4×1.5m)	収量 (kg/10a)	12	304	868	1,653	2,500
	粗収入 (千円/10a)	3	76	217	413	625
	費用 (千円)	820	83	109	258	362
	所得 (千円)	-817	-7	108	155	263
	所得累計 (千円)	-817	-824	-716	-561	-298
フェザー苗疎植 (83本/10a、4×3m)	収量 (kg/10a)	6	152	434	827	1,250
	粗収入 (千円/10a)	2	38	109	207	313
	費用 (千円)	470	75	109	109	258
	所得 (千円)	-469	-37	-1	98	55
	所得累計 (千円)	-469	-506	-506	-408	-354
1年生苗 (67本/10a、5×3m)	収量 (kg/10a)	0	5	342	355	1,000
	粗収入 (千円/10a)	0	1	86	89	250
	費用 (千円)	360	83	97	125	239
	所得 (千円)	-360	-82	-12	-36	11
	所得累計 (千円)	-360	-442	-453	-490	-479

### 【2 留意事項】

- (1) ポット養成フェザー苗は、密植することにより収益性が高まりますが、定植5年目までに間伐を実施すると、間伐に係る経費（164千円/10a）により、疎植（83本/10a）した場合よりも収益性が低下すると考えられますので、樹高3m程度までを維持する場合、「大夢」や「ふじ」は、肥沃な圃場等では疎植した方が有利となる可能性があります。

※本研究は農林水産省「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」ブランド化を促進する果実等の生産・加工技術の実証研究により実施したものです

担当研究室 技術部 果樹研究室

〒024-0003 岩手県北上市成田 20-1 TEL. 0197-68-4419 FAX. 0197-71-1083